

## 第5回京都市崇仁地区将来ビジョン検討委員会

平成22年2月26日（金）

【佐倉部長】 それでは、ただいまより第5回京都市崇仁地区将来ビジョン検討委員会を始めさせていただきます。

委員の皆様方におかれましては、本当にお忙しい中、ご出席賜りましてまことにありがとうございます。本日、司会をさせていただきます私、都市計画局住宅室部長の佐倉でございます。どうぞよろしく願いいたします。

この委員会は、前回と同様に原則として公開とすることとしておりますので、傍聴席を設けるとともに報道関係者の方の席も設けさせていただいておりますので、あらかじめご了承をお願いいたします。

なお、報道関係の皆様方におかれましては、カメラ等の撮影は、定点での撮影をどうぞよろしく願いいたします。

本日は、高田委員、田辺都市計画局長が、所用により欠席でございますので、その旨ご報告させていただきます。

それでは三村委員長、この後の議事の進行、どうぞよろしく願いいたします。

【三村委員長】 雨の中お集まりくださいまして、どうもありがとうございます。

本日は、第5回検討委員会です。これまで、1番目に住まい、住宅施策の在り方の検討をいたしました。2番目に景観や、その地域の文化的な資源ということについて検討をいたしました。それから、3番目に、まちづくりの今後の在り方、余剰地の活用について検討いたしました。余剰地とは、これは公共的な用語ですが、これまでの事業の結果としての資源です。その利用も含めて、大きなまちづくりの可能性をどのように今回のビジョン検討委員会で柱立てするか、議論するために本日は、蟲明委員、村上委員、モナト委員、に報告させていただきます。それに続いて、意見交換をいたします。

本日の後半では、今後のまとめ方について相談いたします。あと数日で2月も終わり、3月ということになり、年度末が近づいてきますので、ビジョン委員会の答申をどう取りまとめるか急がねばなりませんので、私からご相談をさせていただきます。これが後半の45分ぐらいを予定しています。

それでは、早速始めます。現在、いろいろなプロジェクトの見通しが不透明な時期でございまして、不動産や土地の需要もどんどん変わっていきます。しかしその中で新しいまちづくりの可能性を探ることが必要です。3人の委員の方々に問題提起をしていただきます。

【岡山課長】 最初に、第4回委員会における、主な意見等を取りまとめておりますので、すまいまちづくり課長の岡山のほうから簡単にご説明申し上げます。

まず、1ページをお開きいただきたいと思います。

まず、ビジョン検討個別テーマ、「住宅・コミュニティ」に関する主な意見等でございます。福祉施策と組み合わせていく多様な住宅供給の可能性はある、との意見をいただいております。前回、第4回の資料に出ている6項目、1点目はストックの重視、2点目は多様性・柔軟性の重視、3点目は関係性の重視、4点目は居住支援サービスの重視、5点目は地域コミュニティの重視、6点目は全市民ニーズの重視を検討の柱にできたらということでのご提案をいただいております。

そのほかに、改良住宅ストックに工夫した再生を施すことで魅力的な空間になる。あるいは、崇仁地区は高齢者が増えており、子育て層、若い方に来ていただく必要があると理解しているが、それにふさわしい住宅供給が必要である。ほかには、様々な住宅形式、例えば、コーポラティブ住宅やコレクティブ住宅などの供給方法を検討してはどうか、との意見をいただいております。

次に、ビジョン検討個別テーマ、「市街地景観・都市空間」に関する主な意見等でございます。

創造都市（クリエイティブ・シティ）が都市論として注目されている。あるいは、クリエイティブ・シティとは、そこに住んでいる人がクリエイティブ・シティ・市民になれる都市である。そのために芸術文化と経済、科学技術と経済が両立する都市、居住と交流が共存する都市、だれもが訪れ、住みたくなるまちを創造都市と位置付け、実現しようという研究が進んでいる。

また、都市において最も大切な資源となるのは、そこに住んでいる人間だという考え方が大切である。あるいは、地域の再生のかぎは、いかに創造的な人材をそこに引きつけることができるかということである。だれもが住んでみたいと思わせる必要があり、そのためには美しい景観や快適な環境を形成する必要があるとの報告がございました。

続きまして、2ページをごらんください。

中ほどで、アメリカの事例として、資産価値を上げるために豊かな街路樹を育成し、美しい町並みを形成した。日本でも美しい町並みを形成したところでは、その影響が地価に出ている。なぜなら、皆がそこに住みたくなるということである。

人が資源であり、クリエイティブな人に住んでもらうということが一番大事で、京都をクリエイティブ・シティにするためには、創造的な人材を集める核（コア）となるものをつくる必要があり、そのうちの1つのコアとなるポテンシャルが崇仁地区にはある。

次に、その他に関する主な御意見でございます。

まず、地区のシンボルをつくり上げることも必要である。ビジョン検討委員会から市長に答申する内容においては、京都市の中で崇仁地区がどんな役割を果たし得るか、様々な方法をお出しいただきたい。

以上が、主に第4回ビジョン検討委員会でいただいた主な御提案等でございます。どうぞよろしく申し上げます。

**【三村委員長】** これまでの意見を反すうしながら、本日の議論につなげたいと思います。

**【岡山課長】** 続きまして、本日の議題であるビジョン検討個別テーマの3番目、「将来の地域まちづくり」についてご説明を申し上げます。

資料2をご覧ください。

今回は、「将来の地域まちづくりについて」というテーマで、他都市の事例紹介や専門的見地に立った提案を、最初に蟲明委員、次に村上委員、最後にモナト委員の順で、3名の委員に共同プレゼンテーション形式で行っていただき、その議論の過程で、市全体における崇仁地区の位置付けや今後の地域まちづくりの方向性等についてご議論をお願いしたく存じ上げます。

最初に、蟲明委員から、「これからの街づくり」というテーマで、人口の減少や国際経済の縮小など、日本がいまだかつて経験したことのない、日本の社会経済の転換期における都市間競争を生き抜くためのまちづくりについてお話をしていただきます。

次に、村上委員からは、「住民主体のまちづくり」というテーマで、地元住民の主体的な活動でまちを活性させた園部町のシンボルロードでの七夕祭りを開催し

た事例や、舞鶴市での肉じゃがでまちおこしをした事例などについてお話をしていただきます。

最後に、モナト委員から、「崇仁のまちづくりから周辺との連携に向けて」というテーマで、地域まちづくりは地域の中だけで完結するものではなく、周辺地域との連携も必要であるとの視点から、「つなぐ」という言葉をキーワードに、京都駅を核とするエリアから見た崇仁地区の歴史的、今日的ポテンシャルや他都市の事例等を踏まえた京都型エリアマネジメントの可能性についてお話をしていただきます。

なお、モナト委員のお話の中で使用されるパワーポイントの資料につきましては、著作権にかかわる資料や写真が含まれているため、資料としては委員以外に配付しておりませんので、あらかじめご了承ください。

説明は、以上でございます。どうぞよろしく願いいたします。

【三村委員長】 では、早速お願いします。

【蟲明委員】 蟲明です。よろしくお願いいたします。

まず、このタイトルについて説明させていただくことがあるんですが、「街づくり」と、あえて私は漢字を使っておりますのは、私の専門は道路とか公園、あるいは建物の配置を考える、形としての街づくりを考えることですが、これに対して平仮名で書いた「まちづくり」は、非常に大きな広い概念になっておりますので、それと区別するために漢字を使わせていただきました。

ということで、本来の平仮名の「まちづくり」に関しましては、私の後、村上さんとモナトさんからご説明いただきますので、私はその前座といたしまして、形ある街づくりのこれからの方向性を考えてみたいと思います。

ところで形ある街づくりを考えるとときに重要なことは、一度形をつくってしまうと何十年も先変えることができませんので、30年、50年先をある程度見越すということが必要になってきます。そこで、最初のタイトル、日本経済の行方という非常に大きなことからお話をします。けれども内容は大したことはございません。昨今、新聞やテレビで言われている皆さんご存じのことをまとめ直していただくことでございます。

最初のグラフ、これは、厚生労働省の外郭団体であります人口問題研究所（厚生労働省に設置された国立の政策研究機関である、国立社会保障・人口問題研究

所)が予測した日本の将来人口をグラフにしたものなのですが、真ん中あたりがピークになっておりますが、これが2005年です。2005年をピークに今後日本の人口は減り続けまして、2050年には1億人を切るだろうと言われております。このことは皆さんよくご存じだと思うんですが、ここで注目していただきたいのは、64歳以下の人口は既に1990年からずっと減り続けているということです。これについては、年齢層別の議論、例えば高齢者である65歳以上は増えている一方、15歳から64歳までの労働人口が減っている、それから少子化ということで14歳以下も減っているということは言われています。ところが、ゼロ歳から64歳までといいますと、実は消費人口なんですね。一番お金のかかる、お金を使う人口、これが1990年からずっと減っているということは非常に大きな問題だと私は思っております。

今後、日本の経済成長はどうかということが盛んに言われておりますけれども、経済成長というのは生産と消費の総和の増大ですので、このように消費人口が減って、さらに労働人口が減っていったら、当然1990年から既に経済成長がとまるはずなんですが、1990年から依然として2%程度の経済成長はしていた。その理由なんですが、それは皆さんもご存じのように、輸出が好調だったおかげです。次のグラフは、輸出と輸入の差を5年毎にまとめたものですが、1985年からずっと非常に輸出が好調だったということが、結局、回り回って日本の経済成長を支えてきたということがはっきりしております。

内容的には、今問題になっております自動車産業、それから家電産業、これが世界を席巻したというのがこのあたりの状況じゃないかと思えます。下世話な言葉で言えば、ひとり勝ちした時代ですね。

そういうふうなことを前提に、これからの日本経済はどうかというのを考えてみますと、まず、頼みの外需がどういうふうになるかということですが、「市場」はこれからいくらかでも拡大していきます。中国やインド、あるいは東南アジア、アラブ諸国、南米、アフリカなど、無尽蔵というぐらいあるんですけれども、そこでこれから売れるのは日本製品ではないということは、この1年で皆が知ったとおりでして、韓国製や中国製の製品がすごく伸びてきておりまして、一般に使うのであれば日本製品は必要ないというふうな状態に来ております。従って、どんどん市場が拡大していきましても、その国の産業が育ってきておりますので、

日本がひとり勝ちするということは今後無理だというふうに考えられます。

それから、よく言われる内需拡大についてですが、先ほども申しましたように、消費人口が減りますので、これは非常に苦しい状況になってきます。それから、今までの内需の裏づけとなってきました輸出が、先ほど申しましたように苦しいですから、普通に考えればなかなか経済成長は難しいということになってくるわけですね。

ところで、こういう経済状況は、実は欧米はとっくの昔に経験しておりまして、それは、日本が台頭したからそういう状態になったんですけど、それをどういうふうにして欧米はしのいだかということです。いろんな手が打たれたとは思いますが、1つは、人口政策として移民の受け入れがあったのではないかと。2つ目は、金融経済へのシフト、新産業として金融経済へシフトがあったのではないかと。ということですね。

同じことを日本もできるだろうかということを考えますと、まず、移民の受け入れについては、これはなかなか日本で合意を得るのは簡単ではないと思いますし、金融経済のシフトは、日本人もやろうと思ったんですけども、あまり向いていない、それと今回危うい道だということがわかったわけですので、金融経済にシフトということはあり得ないだろうと思います。

つまり、今までのように欧米を手本に、その後を追いかけるということは難しいということで、何とか新たな道を欧米と一緒に探すというような状況になったかと思います。

もう1つの大きな問題は、国土の行方です。これもまた大きなタイトルなんですけど、先ほどの人口に戻りますと、2050年に1億人を切るというのは、実は昭和35年から40年の姿なんですね。この年から宅地面積が現在までどれぐらい増えたか統計を見てみますと、2.3倍に拡大しているわけです。ここから人口が昭和40年レベルまで下がるわけですから、単純に考えますと、2050年の宅地面積は2.3分の1になる、つまり60%弱は要らなくなるという計算になります。当然、工場やショッピングセンターも全部宅地ですので、人口に比例するとは簡単には言えませんけれども、とにかく減ることは確かだろうということになってきます。実際に現在は人口がピークなんですけれども、まちの中はスカスカになってきておりますので、これからもそういうふうな状況は進んでいくと考

えられます。ですから、そういう空閑地をどうして維持していくかということが課題になってこようかと思えます。

こういう事態を受けまして、街づくりを今後どういうふうと考えていったらいいかということですが、日本の行く末には大きな課題が横たわっているんですが、いずれにしてもこうした課題を解決しないとどうしようもありません。逆に言えば、この課題をクリアすれば日本の未来が見えてくるということになるわけですから、次に、そこのところを探ってみたいと思えます。

まず、日本経済の可能性といたしましては、やはり今までと同じようなものをつくっていたのでは限界があるかと思えます。よく言われておりますように新たな産業、新産業を起す必要があるわけです。その代表が環境産業（環境保護に関連する産業。環境汚染の防止、資源のリサイクル、代替エネルギーの開発・提供など。）ですね。厳密には地球温暖化対策に関連する産業ですが、もしも世界中が地球温暖化対策に動き出せば、あらゆる分野で新しい製品、システムが必要になりますので、日本の得意な「ものづくり」という分野で、新しいものをつくっていくということで、やはり世界の先端を行けるのではないかということですね。

もう1つは、文化産業。観光なんかはそうだと思います。それから、今、わりと脚光を浴びているのはアニメとかそういうものですね。それから、知識産業、情報産業、こういった、文化・知識産業と言えるかもわかりませんが、そういった分野の産業が脚光を浴びてくるというふうに言われております。

一方、そういった経済を追うだけではだめではないかという、もう1つの別の新たな価値観が必要ではないかという考え方があります。その代表が、前回の委員会で門内先生がご紹介されましたクリエイティブ・シティ（創造都市）の概念ではないかと思えます。これは、先生が前回お話しされておりましたように、まだこういうものだというものは具体的にはなかなか出てき難いようではすけれども、聞くところによりますと、ポイントは、人はお金だけを求めて動いているのではなく、お金の後ろにあるワクワク感というもの、そういうクリエイティブなものを求めて人は経済活動に励んでいるというところがありますので、そうしたらお金とは関係なしに直接そういうワクワク感を得られるような都市システムをつくれないうかというのがクリエイティブ・シティというふうな解釈ができよ

うかと思えます。こういったものが新しい街づくりの原動力になるという可能性もあると思えます。

最後に国土再編の可能性。先ほど空閑地がこれからどんどん出てくるというふうに申し上げましたけれども、逆に考えますと、今まで日本では土地不足に悩まされてきたわけですから、ある意味土地が余ってくるということは国土づくり、都市づくりにとっては千載一遇のチャンスではないか。ですから、今までできなかったゆとりある空間づくりというのがこれからできていくのではないかということなのです。

ちょっと大ざっぱになりましたけれども、こうした3つの可能性をどのように取り入れていくかというのがこれからの街づくりのポイントになるように私は思うわけです。

以上でございます。

**【三村委員長】** どうもありがとうございました。

前半は日本の行方を考えると、人口減、消費需要も減っていくという、あまり景気のよくない、今までみたいにどんどん進め、進めじゃいかんという話ですが、それだけだと気落ちしてしまいますので、されど日本はそういう文化とか、わくわくするまちづくりとか、いろんなことに知恵を出していけば、日本なりのおもしろい、ユニークな道が開けるんじゃないか。ここが考えどころですよとポイントを指摘していただきました。

続いて、村上委員お願いします。

**【村上委員】** それでは、私は、「住民主体のまちづくり」ということで、今、蟲明先生のご報告にあった、ワクワク感を持ってという、まちづくりに取り組んできた方、私がアナウンサーとしてラジオ・テレビで地域おこし、まちづくりにかかわった人とか、あるいはそのまちの産品とかを取り上げてきましたので、そういったものを皆さんに映像でごらんいただきながら発表させていただければと思います。KBS京都の地域情報番組、タイトルが「deちゅう」です。出かけて中継。いろんなまちへ出かけて行って、その場所でいろんな方と出会って、いろんな産品をご紹介しますながらの番組です。

先ほど事務局からもご案内がありましたように、今日は南丹市園部町と、それから舞鶴市編、これらはすべて私どものテレビでオンエア、放送されたものです。

ので、それをご紹介します。

まず、南丹市園部町は、ごらんいただいたとおり京都府の中央部で、国道もたくさん走っておりますし、JR山陰線が通るといって、とても交通アクセスがよくて、JRの園部駅からは京都市の通勤圏になっているという、そんなまちです。元城下町として栄えたところ。こちらの南丹市園部町のお祭り、実は夏の七夕祭りの会場に、2006年7月にお邪魔いたしました。ちょうどその年に園部町はお隣の日吉町と八木町と美山町と合併いたしました、とても大きなまちになっております。祭り会場はこちらでございます。宮町のシンボルロード。園部町も例に漏れず、中心市街地というのは高齢化が進んで空き店舗も多くて、空き地もたくさんあって、閉塞感が漂っている。そんな町中の道路を整備して、国道9号をちょっと入った宮町の交差点のところ、市役所の横にシンボルロードができました。といいましても、延長50メートル、幅6メートルぐらいの道路なんですけど、こちらで、いつもはバスが通っているんですよ。でも、七夕祭りが行われるその日は、交通規制が敷かれて、皆さんが七夕祭りの準備をしているところをお邪魔いたしました。皆さんその模様をご覧ください。

(ビデオ上映)

**【村上委員】** ごらんいただいたように50メートルの道路、何もなかったところに、竹に飾りをして、各自治会であるとか、お店であるとか、いろんな団体が持ち寄ってこういう形の七夕飾りだけで人が集まり、そして祭り、新旧住民の交流の場になってきたと。でも、それも25年かかったわけですが、通りを生かしたまちの活性化ということで園部町が取り組んで、1年目は補助金が出たそうです、助成金が。でも、それ以降は商工会青年部、今の映像に映っていましたが皆さんも含めてみんなで力を結集して、そして今ご紹介した園部町で学ぶ伝統大学校の生徒さんが、常に六、七十人はボランティアで参加してもらっているんで、赤字を出さずに交流の場、地域おこしの祭りが維持されているという、そういう模様をレポートいたしました。

そして、まちの有名人登場ということでごらんいただきたいんです。これが道の駅、京都新光悦村。いつお会いしてもこの格好です。道の駅駅長さんの佐々谷さんでございますが、これは6年前に新光悦村というのができまして、ちょうど道の駅、京都新光悦村は、縦貫道のすぐ横にあるんですね。周りは何もありません。

ん。でも24時間トイレはあいておりますし、こちらのほうは、皆さんの来場者数が右肩上がり、年間28万人、バスが1,000台。そして、売り上げが2億2,000万円と駅長さんがおっしゃっていました。園部町内の住民も雇用できて、うまいぐあいに1つの観光のメッカにもなっているということです。

まちの特産品も胸を張って紹介してもらいました。いろんな特産品がある中で、地元に住んでいる、地元だからわかるおいしいものをつくろうということで食材を吟味いたしまして、卵かけご飯というもの、これでございますが、何もございません。白い園部米の「れんげ米」と、美山の平飼いの卵と、亀岡市のおしょうゆ屋さんの卵かけご飯専用のしょうゆ「たまごちゃん」、これをセットにして道の駅で250円で売ったら、これがヒット商品でございます。食べたら、おうちに、家族に買って帰りたいなと思ったときには、どうぞ道の駅に販売しておりますから買ってください。そういうことでリピーターも多く、駅長いわく、自分のまちを知っているからこそ、まちのよさがわかるからこそ、こういう特産品ができたんじゃないかと。

それだけに終わらず、今度はまた縦貫高速無料化区間も6月からありますので、もっと人を呼び寄せようということで、働く人たちみんなアイデアを凝らしながら、もっと集客に努めたいということでございました。

こうやって住民主体のまちづくり、園部町をご紹介いたしましたけれども、それ以外にも舞鶴の場合ということで、舞鶴といえば、皆さんいろんな取り上げ方をされておりますが、肉じゃがが地域おこし、まちおこしという、ニュースなどではご存じだと思うんですが、15年ぐらい前に始まったんですね。舞鶴の肉じゃがお婆さん、自称肉じゃがお婆さんと私、15年前にインタビューしてから知り合っておりまして、その舞鶴編の模様を赤れんが博物館から中継をいたしましたので、卵かけご飯に続いては舞鶴の肉じゃががまちおこしを成功させた女性のVTRをごらんいただきます。

(ビデオ上映)

【村上委員】 という伊庭節子さんですが、もともと八島商店街のお店のおかみさんでした。「お店に全然お客さん来えへんな。お客さんを呼ぶにはどうしたらええやろ。そうや、八島が元気になったらええんや。八島商店街に人を来てもらうようにしましょう」と仲間と考え出して、八島だけやない、八島商店街がある舞鶴に人がきて

もらうにはどうしたらいいのか。そこからどンドンひもといて、肉じゃがに目をつけて、最初はずっと遠巻きに見ていた行政も、積極的に協力をするようになって、肉じゃがにおいての行政の協力は、大きな、今映像の中で言っておられた750人分をつくれるなべ、これは常に役所に防災用として大きななべが保管してありますので、それをお借りして、一般家庭でそういうなべは保管できないし、それぞれに役割分担というがあるので、それでもってお借りして、車で、大きなバス1台をチャーターして、うちのKBSホールで祭りをするというたら、肉じゃがをPRするためにということで皆さんも一緒に朝一番舞鶴を立て、10時からスタートのお祭りにも参加していただきました。とても行動力のある方です。

おっしゃるには、今日こうやって発表しますよというお電話を差し上げたときにおっしゃっていたのは、「やめたらあかん」と。「自分のまちや。他人のまちやない。自分のまちやから」ということで。最初5年ぐらいはやっぱりみんな引いてはったし、商店街のおじさんたちも、「たかが肉じゃがで何を」というふうな目線だったんですが、今はまちこぞって肉じゃがでまちおこしをやって、今では産業にも結びつきまして、「肉じゃがパン」と、それから「元祖まいづる肉じゃがコロッケ」、これは今全国で発売されております。会の活動費にもなっているということです。

地域に住んでいるから、まちに住んでいるから私たちは宝を見つけることができましたと。だから、これからももっときらり光るものを見つけて、もっともっとまちが元気になっていくように頑張りますというふうなことも言ってはりました。

先ほどの美山もそうなんですが、交通アクセスが充実して、京都縦貫道も整備されて、こういうふうな思いをいろんなところへ届けるにも、PRするにも移動できる、そういう周遊型の観光もできる。それには交通整備もされている交通道路。この辺も大きなポイントかなと思うんですが、崇仁地区というと、京都駅にも近い、そういう立地条件もあわせて、その位置としてどういうふうなまちづくりができるのかなと、可能性はどンドン膨らむんじゃないかなと思っております。

もう1つ、知恩寺さんの手づくり市があるんですが、これも全く平場の何にもないお寺の境内が、毎月15日、手づくりのものを集めてくださいというだけで、

今や大きな大きな市になりまして、ここで人気のあった商品は、若い人がまちで店舗を借りて営業を始めているというような、そんな市も京都の町なかにはありません。

こういうふうに番組の中で知り合った人、あるいは産品でまちおこし、地域おこし、住民主体ということで今日は発表させていただきました。

【三村委員長】 村上委員のインタビューシーンの映像から抜け出したようにいまここにご本人がいらっしゃる。とても臨場感にあふれた報告でございました。

とにかく余剰地利用だとか、何だとか言うよりも、最近のクリエイティブ・シティの論理でいえば、人々が創造するワクワク感のあるまちづくりが先行している。そこで、食べ物というの大きな要素ですね。ありがとうございました。

続いて、モナト委員をお願いします。

【モナト委員】 それでは、村上委員のようにはできませんが、話題提供させていただきます。

(パワーポイント使用)

先ほどご紹介いただきましたように、「つなぐ」ということをキーワードに、ご提案をさせていただこうと思います。「崇仁のまちづくりから周辺との連携に向けて」というタイトルで、次の内容でお話をさせていただきます。

話題は、大きく分けて4つ、ご提供させていただきます。1つは、これはこの委員会で何度か発言させていただいた内容をそのままございまして、「京都駅を核とするエリアから見た崇仁地区のポテンシャル」。それから2つ目が、「崇仁地区からはじまる、はじめる駅周辺との連携」。3つ目が、これは事例紹介ということで、Cで入れている部分だけはまだオープンにされていない情報ですので、記録としての公開は控えて頂きますようお願い申し上げます。それ以外の内容につきましては自由に使っていただいて結構でございます。事例の1つが、「大阪都心部におけるエリアマネジメントの活動組織」についてで、もう一つが、今つくろうとしている過程をご紹介するというところで、「将来の大阪シティスタイル研究会の動き」です。“エリアマネジメント”と言葉では言いますが、一体どういうふうなものなのかということで、“つなぐためのプラットフォームとしてのエリアマネジメント”の説明をさせていただきます。最後に「崇仁地区からはじまる、はじめる京都駅周辺一帯のエリアマネジメント」ということで、お話をさせていただきます。

きたいと思います。

まずは、敢えて話す必要もないことなんですけども、JR・近鉄・地下鉄の京都駅を中心にするると、“駅東”に位置する崇仁地区がとても重要な位置にあるんだということが一目でわかるかなと思って次のように整理してみました。

まず、“駅西”ですが、これは昨今話題になっている梅小路公園。ここには水族館と鉄道博物館の計画が発表されています。このあたりがどういう交通体系になるかわかりませんが、大きく変ぼうする地区であろうことは確かです。それから、この軸をずっと辿っていきますと、中央卸売市場があって、角屋（角屋の建物は、揚屋建築唯一の遺構として昭和27年に国の重要文化財に指定されている）をはじめとした文化財のある島原地区があり、それから一番左のほうになりますけれども京都リサーチパーク、今は既に就業人口3,000人を超えていますから一大タウンになっております。私がいたころは今ほど大きくはなかったんですけれども。実はこのリサーチパークまで、朝、京都駅から通っている人が結構多いというのにはちょっとびっくりします。距離はありますが、梅小路公園を抜けてリサーチパークまで歩いていかれているというのは、ここに1つの動線があるんじゃないかという視点からの“都市軸”について、大阪ガスとともに、京都市へご提案をした経験がございます。

また、どなたがおっしゃっていたのか記憶にないんですが、“五条通を京都のフィフス・アベニューにしよう”という、いつだったかそういうお話がありました。ニューヨークのフィフス・アベニューとはずいぶん違いますけれども、五条通は拡幅して交通量も増え、東に行けばまさに“京都を代表する文化ゾーン”としての東山地区、清水寺とかがある“文化観光ゾーン”に直接つながります。一方、西にずっと行きますと、ロームとか島津製作所のように京都を代表する企業さんのエリアにつながります。この五条通という主要な軸が、梅小路公園のあたりから続く朱雀大路という平安京の頃の都市軸とつながる。そういう意味では、京都駅から梅小路公園→中央卸売市場→リサーチパークという軸は、あらためてもう一度見直す時期ではないかなというふうに考えております。

それから、“駅南”も大きく変ぼうしようとしております。ご存じのようにいろいろありましたが、ショッピングセンターも春にはオープンするというので、これもまた巨大な商業ゾーンとなります。商業施設として成功する、しないは別

としても、施設規模と京都駅への隣接性からして、京都にとっては大切なエリアになるでしょう。またもう1つ、東寺までも京都駅から結構皆さん歩いておられる。ということは、やっぱり、駅の南地区一帯についてもショッピングセンターができ上がったら、何らかの形で駅との連携を考えていくべきではないかなと考えます。個々が独立してあるのではなくて、一体として駅とつながっていくというのは意味があることだと思います。

それから、“駅北”です。ばらばらのようですが、東本願寺、西本願寺、それから渉成園（枳殻邸）という大きな集客ゾーンがあり、加えて京都の1つのシンボルとなっている京都タワーがあります。同時に、今建設されているヨドバシカメラができますと、間違いなくアジアからの観光客の集客施設となります。ヨドバシカメラはアジア圏の方々に人気の高い集客施設でありますから、オープンの暁には、京都駅からの人がこちらに流れることは間違いありません。さらにもう1つ、なぜこの七条警察署にポイントを置いたかと申しますと、京都府として、この警察署を免許センターとかパスポートセンターとかに変えるという発表をしていたからです。そうすればこの地区に新たな再編の動きが起こる軸となるだろうということで、“駅北”地区を位置付けて考える必要があるだろう、と。

このように見ていきますと、やはりこの崇仁地区は、これだけのものが西、北、南にあるところに近接しているわけですから、「立地からも、それから文化ゾーンとしても非常に意味のあるエリアなんですよ」ということを説明させていただこうと思って、このようにまとめました。

次に、「崇仁地区からはじまる、はじめる京都駅周辺との連携」というテーマで話題提供させていただきます。今、私が説明させていただいたのは、“空間をつなぎましょう”ということが1つですが、もう1つは、やはり京都としては歴史的流れを無視できない、つまり、“時空間をつなぐ”ということをお話したいと思えます。つまりこれは何を意味するかと申しますと、“地域資源をつないでいく”ということがポイントだろう、と。

崇仁地区を見ますと、歴史的な特性として、ここは本当に平安期のころから民衆のまちであり、外国人も往来する国際色豊かなまちだった。ずっと見ていきますと、東西の本願寺もあり、それに関連する産業がここに集積していて、プラス、ここはいろんな手工業の生産と取引の拠点であったというような歴史的流れが今

あり、これを今どう結びつけていくかというのがこれからの課題かと思います。右にまとめたのが“今日的特性”ですが、崇仁地区は京都最大の鉄道ターミナルである京都駅に隣接しているという特性、プラス京都最大の文化・観光ゾーンである東山地区にも隣接しているということ。これについては、先ほどのマップでご覧頂いたのと同じことですが、要は「崇仁地区はまちづくりに貢献する大きな可能性のある地域であるということは疑いようがない」ということをまとめました。

それでは、“つなぐために何ができるか”と考えます。ひとつは今、村上さんがおっしゃったように、「地域にあるモノ・コトを、地域の人たちが生み出すパワーでつなぐ」ということが大前提だと思います。加えて崇仁地区を見ましたときに、崇仁小学校がこれから統合されて1つの大きな空間になっていくわけですが、小学校というのは地域コミュニティのシンボルであったわけで、京都駅と京阪の七条駅のほぼ等距離に位置しています。あれだけのまとまった空間がぽーんと出るということは、これこそ地区のイメージをつくるには、この小学校の跡地の活用の方向性が大きなインパクトを与えたいと思います。つまり、“崇仁小学校をどう利活用するかというのが、崇仁地区のこれからの将来像に1つ大きな影響を持つのではないか”ということで、ご提案するとしたら、やはり何か、今までの学校というDNAを継承するような利用法を考えていただいたらどうかと思います。それと同時に、KRP（京都リサーチパーク）とはまた違った形でのゾーンを形成していただくということで、門内先生や蟲明先生がおっしゃったように、“クリエイティブ・シティ”につながる利活用を考えてはどうか、と。崇仁地区は、エリアの色があまり見えないので、ここを起点にして明るく華やかで賑わいのあるようなイメージを考えると、やっぱり若い人たちに来てもらうような利活用があつてほしい。そういう意味で、芸術系の大学とか、あるいは芸術系の専門学校、突拍子もない格好をしているような子たちがうろろしたり、それでにぎわったりするような、そういう地区になればおもしろいんじゃないかと思います。

なぜ芸術系の学生がおもしろいかというと、そういう子たちに自由に発想してもらって、空き店舗をギャラリーに使ってもらおうとか、お店をやってくれませんかというような形で、“地域との接点”になってもらってはどうか。また、村上さんはよくご存じのマンボ焼きとか、そういう地元ならではの情報を学生さ

んたちのネットワークで、口コミで拡げてもらう。彼らにはすごく情報発信力がありますので、そういう“地域との接着剤になる新しい資源としての学生”，そういう若いパワーが集まる場としての崇仁小学校の跡地利用が考えられたら面白いかなと思います。

“つなぐ”のために、これまでに何度か話題が出ました“エリアマネジメント”という言葉に関してちょっとだけ触れさせていただきます。国交省のホームページからとったものですが、「エリアマネジメントとは、地域における良好な環境や地域の環境を維持・向上させるための住民・事業主・地権者等による主体的な取組」というふうに定義づけられています。その特徴の1つ目は、「つくることだけでなく、育てる」こと。それから、特徴の2つ目は、「行政主導ではなく、住民・事業主・地権者等が主体的に進める」ということ。3つ目は、「多くの住民・事業主・地権者等がかかわり合いながら進める」ということ。つまり、自分たちだけではなくて、もっと多くの人たちが一緒に何かを築いていこうとする動きがエリアマネジメントだというふうに定義づけられています。

エリアマネジメントという言葉が本当に浸透する前からいろんな活動が生まれているんですが、もちろん京都にも生まれていますけれども、私自身が深く関わっている研究会で検討した流れもありますので、ちょっと“大阪の都心部におけるエリアマネジメント”についてご紹介したいと思います。お手元の資料の中でA3版にまとめておりましたが、これは研究会でまとめたもので、まだ今のところは“参考資料”という取扱いでお願いします。例えば、“中之島まちみらい協議会”というのは、これは協議会形式になっています。“御堂筋まちづくりネットワーク”というのは、これは任意の団体。“長堀21世紀計画の会”はNPO法人です。“船場げんきの会”は、これも任意の団体です。“ミナミまち育てネットワーク”も任意の団体。いろんな形でエリアマネジメントの活動が広がっていく中、それぞれがどういう方向でやるのかを話し合いながら活動を進めているわけです。固くきっちり協議会の会則も決めて、会費も決めてやるような団体もあれば、本当にわいわいとまち育てをやっているところもある…みたいな形です。このように大阪では、自分たちのエリアマネジメントの活動を自分たちなりに体系化していこうという動きがこの5～6年ぐらいに高まりを見せています。

その1つの例ですが、これは“船場げんきの会”の説明です。船場の一地区と

いっても23の活動グループがあって、それぞれがまちづくりのことをやったり、歴史のことをやったり、ビジネスに関することをやったりしながら、でも、緩やかな形で船場がげんきになればいいなということで船場をステージとする活動グループのプラットフォームという形でのエリアマネジメントを目指しておられます。

もしかしたら、この崇仁地区から始める場合も、がちがちではなくて、“船場げんきの会”みたいな形でしょうか。このペーパーの中で“緩やかな”と表現されていますが、“船場げんきの会”の世話人の方から、「“緩やかな”じゃなくて、我々の活動は、“やわらかな連携”でつながって活動をしています」とおっしゃっていました。やわらかな形で、つまりフレキシブルにやれることからやるというようなかたちが、もしかしたら崇仁地区に合うかもしれないと考え、“船場げんきの会”の活動についてご紹介しております。何をどのようにやっていくかを住民たちが主体で話し合いながら、方向性、お金の問題も含めて、自分たちで解決するという形をとっていくということがこれからの崇仁地区の1つの参考になるのかなど思ってお話しさせていただきました。

今、マップに落としておりますけれども、“船場げんきの会”ですが、このように船場地区だけで23もの活動グループがあるわけです。長堀も同じように商店街から自治会からいろんなものがあって“21世紀の会”というNPO法人のかたちをとってエリアマネジメントの活動を展開しています。それから、御堂筋沿いでは、企業さんがほとんどですけど“御堂筋まちづくりネットワーク”として、大小様々な事業、イベントを計画しております。それから、ミナミですが、これは南海電鉄さんが主体となって“ミナミまち育てネットワーク”として活動を展開しています。形はそれぞれ違いますけれども、自分たちだけでなく、すぐ隣の、すぐ横の輪を広げていこうという形の動きがエリアマネジメントの様々な活動として、大阪の都心部で起こっている。

それから、私自身、平成15年度から関わっておりますのが、このマップの上のほうに“大梅田地区”とありますが、梅田を中心とする190ヘクタールぐらいのエリアであります。この一帯でもいろんな活動が展開されておまして、これを何とかつなぐことができないかということで検討を始めております。それが「将来の大阪シティスタイル研究会」でして、Cがつけてご紹介させて頂いております。皆さん会費を払って続けてきましたので、情報公開については、現時点で

は慎重に対応させていただいております。この秋には情報をプラットフォームとして出す予定です。

この研究会がご紹介したい2つ目の事例です。190ヘクタールの大梅田というエリアをどうしようとしているのかということで、研究会が始まったのは平成16年1月で、実は私ともう1人のパートナーと2人で立ち上げをやりました。最初は本当に大変でしたけれども、「まちをつくる側の人の意見がなかなか発言するところがない」という話がありましたので、何かそういう会ができないかということで15年度に立ち上げて、官民の枠を超えて、まずは都市再生緊急整備地域と言われているいくつかのポイントについて勉強することから始まりました。今、まさにこの時期に、エリアマネジメントの組織化をしようということで、研究会から独立して活動部会が始まったところです。

これが“大梅田”と私どもが言っているエリアでございまして、いろんな方々がいろんな形で活動をしておられます。ただ、各エリアでの動きが自己完結的であり、相互連携がほとんどない。それは大きい都市の大きい中心地にあるものなので当然といえば当然なのかもしれませんが、それを「何らかの形で連携をする・つなぐ、あるいはつなぐ仕組みを検討しませんか」ということが、現在、この団体が挑戦していることです。

一番上の左側にバッテン（×印）がしてありますけど、例えば大きな組織だけでも、北ヤード地区のTMO・KMO、福島の地区で大福協議会、西梅田のほうでは西梅田協議会とダイヤモンドシティ協議会がある。茶屋町のほうでは北梅田地区まちづくり協議会。これらの地区の活動は、ほとんど何の連携も何の関わりもなく展開されています。今、それを「何らかの形でつなぎましょう」という試みに挑戦しようとしているわけです。行政にもお声がけして、あるいは地権者もかかわって、とにかく「“何かつなぐという試み”を考えよう」、「次の段階に行ったら、大きくつないでいったらいろんなことを挑戦できるんじゃないか」ということで大梅田地区のエリアマネジメント推進のためのプラットフォームをつくろうとしているわけです。

では、どういうことをしようとしているのかと申しますと、例えば、中心部に自動車の流入をなるべく避けさせるには1つの地区でやっても無理だ、と。だったら「中心部への自動車流入を抑制するような手だてを協力して考えましょう。」

ということです。京都もそうですけども大阪のちょっとしたところは自転車だけですね。自転車があることによって快適な歩行者の空間の妨げになっている。この違法駐輪をどう一緒に解決していくかについても、1つの区域でやっても、その区域の近くに移動するだけです。「それでは一体となって、違法駐輪対策を考えたらどうか」ということです。

全然形は違いますが、エリアマネジメントの1つの教科書みたいになっているのが、東京駅を中心に“大丸有”といいまして、“大手町”，丸の内，有楽町“地区”です。ここでは地区を結んで無料巡回バスを走らせることにより自動車の流入を制限したり，人々の動きをコントロールしようというようなことをやっています。下の写真はパリです。パリではよく皆さんご存じの貸自転車の「V e l i b ‘(ヴェリブ)」，(フランス，パリ市が提供している自転車貸出システム)が展開されています。最新の情報では，パリ市内での「V e l i b ‘(ヴェリブ)」の事業は破綻に近いということです。「V e l i b ‘(ヴェリブ)」は，ある程度小さな都市でならコントロールができるけど，パリぐらいの都市規模になると難しいらしいです。日本の大都市でも「V e l i b ‘(ヴェリブ)」に関しては検討されていると聞いていますけれども，なかなかコピー&ペーストして日本の土地でそのまま展開できるかという点，やっぱり難しいものがあるでしょう。

もう1つ，2番目に挙げているのが地域防災とか防犯。何かが起こったときにどういうふうに連携して，どういうふうに連絡していけばいいかということも，エリアマネジメントとして取り組むべきひとつの活動内容でしょう。

3つ目は，環境に関するエリアマネジメントです。「公共空間はばらばらじゃなくて，一緒に維持管理をしましょう」ということ。先ほどの駐輪対策と同じです。下の写真は，これは日本橋でやられた“打ち水大作戦”ですが，こういうような活動もエリアで一緒にやりませんかというようなことを検討していくわけです。

4番目は，これまでに説明したような情報やプロモーションを効率よく，「同じお金でやるんだったら一緒にやったほうが効率がいいじゃないですか」ということです。

こういう活動の教科書があれば，崇仁地区あるいは京都駅周辺で何かの活動を展開していくときに参考になることがあるかなと思ひまして，以上をご紹介します。ありがとうございました。

大梅田といっても、まずは「小さな活動をつなぐことから始める、はじまるエリアマネジメント」かなと。これは、さっき村上委員がご紹介になったように、「肉じゃが”でまちおこしをする」というのと同じです。冬至と夏至の年間2日だけなんですけども、西梅田の一部の方々が“キャンドルナイト”というイベントをやっておられました。エリアマネジメントを目指そうとしている企業とかグループが、この活動に賛同して去年の12月の冬至のときに参加するということをやりました。こういう形で1つ小さくても始めていけたらなというのが1つの例です。もう1つの例ですが、この3月の6、7日に、茶屋町地区に鶴野町というところがあります。昔は鶴野町一帯は菜の花畑で、与謝蕪村が「菜の花や月は東に日は西に」という歌を詠んだところだった、と。この鶴野町の若い人たち、若い経営者がやっておられるのが「菜の花の散歩道」という活動です。これも、今年はまだ見て参加するだけですけども、「これから何かエリアとしてみんなで育ててあげるのかな」という検討がはじまろうとしています。

というような形で、先ほどの“肉じゃが”の話みたいに、何か小さなきっかけをみんなでシェアしながら次のステップに。ただし、ちゃんとしたビジョンを持ってやることによってエリアマネジメントとして活動が繋がっていくというお話をさせていただきました。

京都駅の周辺の地域資源をつなぐことで魅力あふれる地区へと再生することがエリアマネジメントになるかな、と。そして、そのためのポイントは3つかなと勝手にご提案しているのですが、1つ目は「地区の中だけで完結する形じゃなくて、やはり周辺のまちづくりとのつながりを持った連携が必要」だと考えます。

2つ目は、「空間だけをつなぐのではなくて、特に京都の場合は“時空間”、今までの過去からの流れを尊重することによって新たなクリエイティブなヒントがそこに生まれてくる。そういうつながりを持った連携を考えたらどうか」ということです。

そして3つ目は、「地区の方だけの人材で課題に取り組むだけではなくて、外からの資源を積極的に取り入れることによって広がりが生まれていくのではないか」ということ。

この3つを基軸において京都駅周辺をつなぐということが、「崇仁地区からはじまる・はじめるエリアマネジメント」として生まれるとしたら、今までにはな

い“京都型のエリアマネジメント”になるかもしれない。そういう流れができればいいなということでまとめました。以上です。

【三村委員長】 大阪では、いつも平松市長は橋下知事に責められて苦しいことばかりを言っているんですけど、結構エリアマネジメントを緻密に組み上げているんですね。

【モナト委員】 でも、大阪市に住んでいる人は大阪市自体にあまり頼っていないですね。だからうまくいっているのかもしれない。

【三村委員長】 京都型はまた違うかもしれない。こちらの場合は結構公共団体というか、京都市との行政施策との間でずっとやってきた。だから、そういう意味では半ばクローズされた関係でもあるんですけど、それもまた公共施設がたくさんあるとか、改良住宅があるということも資源ですので、それを今度は外に向けてどう広げていくかとか、今度は下京区における基本計画をつくる時も、そういう中にも取り入れて、この位置づけをどうするか、東山区の連携とか、下京区の連携、南区も今日は関連が出てきましたけど、そういったことで小さいことからでもいから可能性を探っていくと。

例えば、本日はここへ福祉サービスの統計やマップというのを下京区役所から提供していただいていますけども、ここはいろいろ公共施設もあります。それから、公的住宅ストックもありますから、こういったものを今後ステップを踏みながら、どういうふうに、もうちょっとオープンな形で使って情報化していただけるかとか、そういうことも1つのテーマになってきますね。

京都の学生エネルギーは大切な着眼点で、実は、景観・まちづくりセンターでも、衰退している商店街を学生さんと一緒にどういうふうにアイデアを出しておもしろくするかというようなコンペを1年おきに2回やったんですけども、そのときに地元の商店街の方と学生さんとが一緒にワークショップを開いたり、現場で一緒に話をしながら歩いて、結構ふだん思いつかないようなことを提案してくるというようなことがありましたから、そういう若い、自由な人たちを媒介にしてつなげていくというようなこともいろいろ考えられると思うんですね。

これまでの地域と京都市との関係で地域づくりを進めてきたという、かなり堅い関係がありますので、それをまだ続けなきゃいけない面もあるし、それを利用しなければいけないんだけど、それからどうやって外向けにつながりをつけて広

げていくかという話になってくるんじゃないかと思いますね。

この前は、クリエイティブ・シティという話で、今の民主党なんかももはやコンクリートじゃなくて人の関係だというようなことをよく言っていますが、あれも私のような建築系からすると、ちょっと言い過ぎじゃないかと思ったり、しかし、そういう人のつながりを基本にする点では大筋としては新しい感覚じゃないかなと思います。

いかがでしょうか。門内副委員長は、前回のクリエイティブ・シティを紹介いただきましたが、京都型、大阪型クリエイティブの取組をどう受け止められたでしょうか。

**【門内副委員長】** 今日の記事では、問題を狭い範囲で考えるのではなくて、広域の視点から考えようという提案があったと思うんですけど、ご提案いただいたことに関して委員の皆さんにそれぞれご意見とか、感想とかをいただいたらどうかと思うのですが、いかがですか。地元の方とか。あるいは、檜谷委員から順に話をしていただいてもいいんですけども。

**【三村委員長】** あまり時間もないので、短くご発言をいただいて。

**【檜谷委員】** ありがとうございます。今日のお話は、この地区のことだけを考えずに、広く、周りの地域とうまくつながっていく、全体として京都駅周辺のエリアが一体化して、より活力を持っていくような形にしていってほしいということでしたが、私もそのお話、大変共感して聞かせていただきました。

私のほうは、前回、高齢者の住生活や福祉に関して、これらへのニーズがこれからはどの地域でも出てくるということを強調したつもりです。崇仁の地区でも住民が非常に高齢化していますが、そうしたサービスの拠点は、これからはどこでも求められています。それで、地区を変えていくときにそういうものを入れていくという発想でやれば、地区の外におられる方もここにきてそれを活用することができます。また、ここに拠点があれば、地区の外の方に必要なサービスをここから届けていくということもあわせてやっていくことができます。そうした中で、この地区の魅力をいろいろな方に知っていただけるのではないかと思います。こうした考え方をつないでいくとおもしろいかなと思います。

**【門内副委員長】** 発表された方は多分いいと思います。発表されなかった方にご発言をいただくほうがいいと思うんです。

【三村委員長】 区長さんが手を挙げておられますから、どうぞ。

【西川下京区長】 あまり時間がございませんので、積極的に参加をさせていただこうと思います。

まず、今日のお話を伺った感想ですが、特にモナトさんの今日のお話は、私も今、下京区で基本計画の論議をしているんですけど、本当に共鳴するといいますか、私も同じような問題意識を持っていまして、大変参考になりました。

とかく区の計画といいますと、駅から北側は下京区で、駅前、駅前と言ってしまうと、南区側のことを念頭に置かない。だけど、観光客にしろ、市民の皆さんからしたら、京都駅を中心にした全体の周辺のにぎわいであったり、観光であったりするにもかかわらず、ともすれば区というのは境界の中で考えてしまいがちだというふうに思っています。そこはぜひ打ち破りたいと思っていまして、南区や東山区、中京区、いろいろ声をかけているんです。ぜひ、これは市の基本計画の舞台の中で、私はそういう論議を下京区からやろうというふうに思っております。

エリアマネジメントのお話も、今、下京区ではいろんなプロジェクトが動き始めていますよね。梅小路のエリアもそうですし、崇仁もそうです。駅前も御遠忌法要の関係で門前町が動いています。

ところが、先ほど大阪の例であったような、そういう核（コア）の取組がないんですよね。ちょっと私も動いて、そういうのをつくってもらおうといろいろな方にお話はしていますので、ひょっとしたらこれから梅小路界わいでも出てくるかもしれない。ただ、芽が出かかっているというか、やろうとしておられるのは、駅前で言えば駅ビルさんとか、東本願寺さん、西本願寺さん、このあたりはやはり問題意識をものすごく持っておられる。特に前回の蓮如さんのときの失敗をものすごく教訓にしておられて、地域貢献ということを積極的に考えておられますね。むしろお寺さんから地域に問題提起をしておられる。問題は、そうされた地元がなかなか答えられてないというか、立ち上がりが重たいところがありますね。

というような、課題はいろいろというか、プロジェクトはいろいろ動きますので、ぜひエリアマネジメントの発想を大事にしたいなど。駅前という東、西でいくと、下京区は東西で大体3.5キロなんです。そこまで行かなくても2キロ程度の範囲の中でこうしたエリアマネジメントがイメージできるのではないかという

ふうに思います。ぜひとも今後も参考にさせていただきたいと思います。

私の今日お配りさせてもらった資料の若干の説明だけ。お配りしております下京福祉マップですね。これはおとつい完成した地図です。というか、既にあったマップが福祉課題ごとのマップになっていましたので、これがなかなか私も仕事をしていて使いづらかったので、福祉情報を1つのマップにということで職員がパソコンを使ってつくってくれました。これを見ますと、崇仁のエリアというのは、それなりに医療機関もそうですし、福祉の関係、そろっております。

ところが、今日、当日配付をしました統計資料なんですけど、これを見ていただくと大変よくわかると思うんですが、崇仁の高齢化率が38.4%ということで、京都市内でも断トツだと思います。下京の中でも断トツの高齢化率です。崇仁は、高齢者関係の施設が充実していますから、今の崇仁の実態とかみ合っている、これは言えるんですけども、子どもの関係、保育所のデータも最後につけておいたんですが、子どもたちが住んでいるのは堀川から西のエリアなんですね、下京区の中でも。西側のエリアというのは子どもたちがたくさんいて、保育所なんかでも全部満杯になるんですね。だんだん自宅から遠い東側へ埋まっていくわけですね。

ところが、崇仁の場合は、この定員の設定の仕方がかつて同和保育所として大変子どもたちが多かったころ、だんだん定員は下げてきているんですけど、今でも170名という定員を設定してしまして、本当にそれだけ入るのかなというような数字なんですけど、この定員に対して実態が92人ということで、待機児童がいるにもかかわらず、崇仁ではこういう状態だと。つまり、子どもがいないんですよ。だから、下京渉成小学校の統合というようなことが起こるわけなんですけど、子どもの福祉施設はあるのですが、それが十分に活用されていない。それはやはり活用しにくいというか、周りのエリアで子どもたちが大変少ないんだというようなことがあるというふうに思います。

特にこれなんかを見ていただきますと、1枚ものの資料ですけども、人口の年齢構成ですね。上の左が京都市の人口ピラミッドです。上の右が下京区の人口ピラミッドです。下が、これは崇仁の人口ピラミッドですね。ですから、高齢者の方が極めて多い。児童の皆さんの数は極めて少ない。これは京都市内、学区別にこのデータはオープンにされてしまして、今日の2時、このデータが更新されて

おります。更新後の直近のデータです。皆さん方もインターネットで見えていただくことができます。また、冊子にもなります。だから、学区別のこの人口ピラミッドを見ると、崇仁の場合は際立って特徴的な構成になっている。本来こういうお話は、この委員会の最初のころに、現状認識というような段階でご報告すべきだったと思いますが、おくれればながらご報告にかえさせていただきます。

以上です。

**【三村委員長】** 貴重なデータで、こういうグラフを見たいと私も思っていたんですよ。

結局、児童福祉施設なんかもありますけど、住宅が、改良住宅は空き家が出ていても一般公営になかなか移らないので、空き家が増えていって、結局新しい人口の導入が進まない。そこでどんどん高齢化が進んでいくということで、ある程度どの辺でそういう公営住宅というか、大阪なんかは市民住宅と言いかえていますけども、そういうものにある程度限定しても活用していくかとか、そういうこともやがてテーマになってくると思うんですね。そういうことはまたこれから、公共のかかわりが非常にあるところだから、そういう公共的な資源をどういうふうによく使っていくかという、これは前回高田先生、檜谷先生からもご提案いただきましたけど、そういうこともかかわってくるんじゃないかと思いますね。これは貴重な資料です。どうもありがとうございました。

それでは、山下委員はいかがでしょう。

**【山下委員】** 蟲明委員のお話は、大変マクロなお話でわかりやすかったと思います。将来、余っている土地が増えてくるのでゆとりある生活ができるのではないかと、うお話がありましたが、土地の所有者が手放すには、買ってくれるとか、そういう経済のシステムが回らないと1つの大きな土地にはなりにくいと思いますが、そういった取組というのは進められているのでしょうか。

**【蟲明委員】** そういう取組があるかどうかは定かではありませんけれども、これは市場がそういうふうにつくっていくのではないかと。逆に、売れない土地が都市の中でたくさん出てくる可能性がある。まちの中、このあたりは便利ですから、うまくやれば人が来るんですけれども、都市施設、街路とかが整備できていないところ、具体的に言うと、語弊がありますけれども、京都市はたくさんあるんですね。そういうところは、実際不動産業界では、近所の人が隣の家を買うとかいうぐらいしか市場性はないと言われていています。そういうところはどんどんまちが廢れて

いく可能性がありますね。

【三村委員長】 郊外においても、どんどんお年寄りが住んでいた住宅が、空き家になって、しかし、売れないとか、そういうことが起きている。

【蟲明委員】 その後、どうするかというのは大問題です。

【三村委員長】 こちらの余剰地だって、今後よっぽど魅力的にまちづくりを進めていかないと、利用者が出てくるかどうかということも、これまでみたいにすぐショッピングセンターが建つとか、誘致施設ができるとかいうような時代ではないので、その辺を柔軟に考えていくことが大事ですね。

どうぞ続いて。

【山下委員】 村上委員のご紹介いただいたまちおこしの活動は、大変おもしろいと思いました。崇仁でもそういった活動を定期的に行っていらっしゃるとは思いますが、もっと外から集客ができるよう情報発信や、イベント形態に特化したものができるといいなと思います。

モナト委員のご意見をお聞きして、今後、若い人たちを呼び込むには、そういった対策が必要になってくるのではないかと思いました。大変参考になりました。ありがとうございます。

【三村委員長】 人々があるまちへやってくるのに、土地勘で来るという人は少なくて、例えば西陣のまちなんかを歩いていると、携帯を持った人がぼっと思わぬ店へやってくるような状態ですね。そういう情報で来るんですね。そういう魅力アップのための幅広い情報発信が大切だということですね。

【鎌田委員】 今、委員長がおっしゃったように、私ども思っているのは、改良住宅、これが一般の人も入れるような形ができるのかどうかということと、長い間の崇仁のほうで考えておられた商業ゾーンがあるんですけども、そういうところが本当に一般の商業ゾーンが入れるような形を京都市がつくってもらわないと、今、この崇仁地区に八百屋さんというのはないように思うんです。あれは菊浜ですね。七条通にあるのは菊浜学区ですね。1軒あるんですか。

【三村委員長】 ありますね。

【鎌田委員】 だから、お年寄りが、買い物に行くときは、近鉄百貨店跡地の後ろの市場まで買い物に行っておられるというような状態を聞きますから、やはり住民が住みやすい環境をいかにつくるか、そうでないと、どんどん人が外へ出て行ってし

まう。人口がますます減っていくということなので、早く商業ゾーンが活用できるような状態をつくらないとだめだというふうに思っております。

それと、下京区長がおっしゃった、下京のまちづくり基本計画の策定委員というのが、奥田さんと私も入っているんですけど、このまちで崇仁のまちづくりをつくっていかうと思ったら、基本計画の中へ入ってやっついていかないといけない。先ほど、モナト委員がいいことをいろいろおっしゃってもらったんですけど、下京の策定委員にも来てもらえないかなと、思っているんですけど。

やはり、京都というのは保守的なところがあって、下京中学をつくり上げるときにいろんな問題点があったんですが、そういうことを打破するために、やはり下京の基本計画策定の中に入れてもらって、村上委員もおっしゃったように、園部町の話が出ていましたけれど、崇仁でも他地区の人も入れて、我々も入ってにぎわいをつくらないと、過去の差別的なことが、今なお現存しているように私自身にも直接言われますから、やっぱりそういう偏見を打破するためにも他地区の人が郷之町のところ、この間、先生は写真を写しておられましたね。あそこがいい通りができていますね。ああいうところとか、閉校後の崇仁小学校跡地に、芸術系大学をというふうなうわさも挙がっているようで、これはいい発想だと思っております。これが地区の方に賛成してもらえるかどうかという問題もあります。崇仁小学校の成り立ちとして、昔市民がお金を出しあってつくったものですから、そういう問題点がいろいろと古い人の中には残っていると思いますので、そういった問題をいかに解決していくかということも必要だろうと思います。やはりいろんな地区の人を交えて1つのにぎわいをつくっていくということが大切だろうと思いますし、崇仁小学校跡地に何か新しいものができることは大切だと思います。私どもの学校の跡地もいろんなことを考えていますが、子どもたちが使えるようなことで、もったいないと言われているんですけど、畑をつくって年寄りと子どもが触れ合うということを企画しておるんですけど、やはり下京の策定委員会の中で崇仁地区も、他の地区の人もまじっていろんなことを考えていく必要があると思いますので、モナトさん、ぜひまた下京にいい考えを提案してほしいと思います。そういうことでございます。

【三村委員長】 鎌田委員、ありがとうございました。

お二人とも下京の基本計画策定委員なんですね。それは心強い。これからまだ

取組は続きますから。

野々口委員，どうぞ。

【野々口委員】 貴重な時間なので，できるだけまとめて言いたいと思います。第4回，5回の議論をお聞きしながら，これからのまちづくりをするためのヒントというのをたくさんいただき，かなり参考になっています。今日の資料を見ても，崇仁学区は大変だということもデータの中でもよく出ていると思います。まちづくりであれをつくろう，これをつくろうという話もちろんわかりますが，一番気になっているのは，やっぱり夜のことです。

例えば先ほどの例でびっくりしたのは，崇仁小学校の跡地に学生を呼んだらどうかという話がありましたが，夕方になれば全部，自分のすみかと言うか，ほかのところに帰ってしまい，そのあとに残るのは今，地域に残って住んでいる人たちです。

崇仁学区を見ると，最近，空き家が非常に多く，まちが大変暗い。過去に地域で放火があるなど，防犯上の問題もあります。そういった意味で，まちの夜の過ごし方ということについて少し考える必要があるのではないかと考えています。

私もよく町内の活動でよく夜になったら外出していますが，その都度，夜の時間の過ごし方，特に地域の住民の人の夜の過ごし方を考えます。

今，崇仁小学校でいろんなサークルの人たちが町内の人を集めてスポーツとかをやっているわけですが，そういったいろんなことに使える場所としての視点も必要でないかと考えています。

昼間は仕事をしている人がたくさんいて，夜の12時ごろまでは活気づいていると思うのですが，夜になるとまちは閑散となるので，このような状況を住んでいる人たちがどう感じているのかを最近つくづく考えています。

【三村委員長】 ありがとうございます。公共的な施設はいっぱいあるんですけど，これをうまく使ったり，楽しく使ったり，賑わいをつくる活動をどう進めておられるか，そういうことも私はまだあまり勉強していませんので，また一度小学校も見せてもらいに行きたいと思っていますので，またよろしくお願いします。

それじゃ，奥田委員，お願いします。

【奥田委員】 奥田です。今日の蟲明委員，村上委員，モナト委員のお話，本当にうれいいですね。私もいつもそういう思いを持ってずっとまちづくりをやってきていま

す。しかしながら、なかなか壁も厚く。

一番興味があったのは、住民主体のまちづくりについて、これにつきましては、私も子どもが崇仁小学校に入学して感じたことがあって、ものすごく閉鎖的な崇仁地区だったんです。学校自体がものすごく子どもをガードするというか、そういう学校の状態が、まず僕が感じたことで、何とかそんな学校の状態から子どもらに自由を、もっと外の環境に触れさせてやりたいというのが、僕が最初にまちづくりにかかわった話なんです。

少年野球の指導者になり、そしてまた、学校のいろんな活動にかかわって、崇仁小学校にしても、以前よりかなり僕は開放してきたという思いでいるんです。というのは、それまで、なかなか対外的に崇仁に足を運んでくれる方々が少なかったということなんです。それを逆に、外から崇仁に来てもらって、そして崇仁の人が外へいろんな交流をしていくというのが、僕が手がけたまちづくりの活動の中で一番大切なものであり、このまちづくりにそれはまだ生きているという思いはあります。かなり開放的になって、今、崇仁はわかりやすい崇仁地区になっていると。これまで僕は、地元でいろんなまちづくりを頑張ってきたけども、地元だけでは限界がありますので、これからはいろんな人と交流しながら、いろんな方の意見を聞きながらやっていくというには、ちょうどいい時期に来ているのかなと思います。

それと、祭りの関係ですが、昭和30年代に崇仁の船鉾が2基とだんじりが5基、この関係で改良事業が進む中で、老朽化しても面倒を見る方もおられない、そういうものをまちおこしとして、もう14年ぐらい前になると思うんですが、住民の力で復元をして、今立派な船鉾が2基と曳山が1基、それに子どもみこしという中で、今、まちの中で中心となっておはやし、祭り、船鉾、これについては立派に住民が一体感を持ってできるものできていますので、それも含めて、ちょうど先ほど話がありました、外との交流の祭りということ今年からやろうと、私の頭の中の計画には入っているんです。それで、いつも5月の第2日曜の日吉祭、新日吉神宮ですね、京都女子大学の。あそこの祭りの日に崇仁の祭りをやっていたんですが、今年からそれを離して、もうちょっと市民の皆さんがわかりやすい、交流できる祭りに何とかならんかなという思いがあります。今、下京区のアドバイザーの方もおられますので、そのご意見を聞いて、今年の6月を目

途に、例年は5月なんですけど、今年は6月を目途に何か新しい形の取組をと、計画をしている最中なんです。

私はこのまちづくりについては、やはり住民の思いは、これまでの長い思いはあるけれども、やっぱり皆さんのご意見を聞きながら、崇仁のまちが自然と京都市の中の一部になるような形が望ましいなと思っているんです。

【三村委員長】 すばらしい展望ですね。お祭りというのは、伝統的なしきたりとか何かがあって、神社もまたあるでしょうから、この地区と神社との関係とか、いろんなこと協議していかなきゃいけないですね。また、この地区整備においても、お祭りのルートだとか、どこでみんな集まるとか、広場をつくるとか、そういったこともあわせて考えていかなきゃいけないと私も思っています。

【奥田委員】 なぜそういう話になったかという、国道24号の工事が23年間かかって、やっと去年の9月に開通したということがあり、その国道のふたかけ部分ですね、ちょうどJRの北側の、あそこをお祭り広場のような位置付けをしながら、ちょうど国道の側道側に柳原銀行もありますので、あの辺をそういう形の中で活用できたらなという思いはあるんです。これまでは、崇仁小学校でいつもイベントをさせていただいていたんですが、この3月で閉校になりますので、学校で行うよりは、そのほうがわかりやすいかなという思いです。

【三村委員長】 小学校利用にはいろいろ若い人が来てほしいのですが、塩小路通などもう少しにぎわう通りにしないと。

【鎌田委員】 学生は遅くまでおります。

【三村委員長】 夜なんか、制作を始めたら、芸術系なんか徹夜したり、夜中に出入りますからね。大体芸術家というのは夜中にごそごそするのが好きな方々が多い。

【鎌田委員】 心配要らないと思います。

【門内副委員長】 そろそろ第2段階に。

【三村委員長】 ごめんなさい。今日はずっと報告者の方も丁寧にやってくさいましたし、肝心なつなぎのところが非常におもしろくお話が進みましたので成果はあったと思いますけど、それだけに時間もかかっちゃいまして、これで本日の第1議題が大きな成果を得て終了ということで、第2議題は、これは今後の話でございますが、それではちょっと5分から10分超すかもしれませんけど、そのお話をさせていただきたいと思います。

いよいよ年度末になってきますので、これ、2年間やるわけじゃないので、1年間でどういうふうにまとめて報告するかということで、これはしかし、この委員会としては終わりだけでも、崇仁のまちづくりとすれば新たな始まりですから、どこで誰にバトンパスをすればいいのかというようなことも考えながらまとめていかなきゃいけないですね。

【鎌田委員】 年度を越えてもいいのではないですか。

【三村委員長】 それで、日程的に申しますと、これは市長からの諮問ですから、一応答申しなきゃいけないんですね。それをまた市の当局の人たちと、地元の方と、市民もいろんな方たちも、それを踏まえて理解していただかなきゃいけないと思うんですけど、とりあえずは、これから事務局と私、門内さんも協力していただいて、答申の原案をこれから月末に、3月25日までには短い原案を作ると。それで、できるだけ早い時期にその素案をつくって、委員の皆さん方に事前に短く説明してまわり意見を賜るようにするというのを事務局と考えているわけです。

【岡山課長】 今、委員長からお話をいただきましたが、これまでに4回の将来ビジョン検討委員会を開催させていただきました。本日、第5回目の検討委員会で、将来の地域まちづくりについてというテーマで他都市の事例紹介や専門的見地に立ったご提案を3名の委員からお話をいただきました。その内容もあらかじめ事務局のほうで聞かせていただいておりますので、将来ビジョンの報告（案）の項目と全体構成図をただいまから配付させていただきたいと思っております。

【三村委員長】 配付してください。それをごらんいただいて、また内容が変わるかもしれませんが、とにかく3月の中頃には委員の皆さんに原案のご説明をしていくと。そこでご意見をいただいたものをもう1回集約して3月25日に、その原案を1回きちっとここで提案をします。その時にいただいた意見をまた受けて、4月に向けて市とも調整しなきゃいけないし、できることとできないことといろいろありますから、そういう調整期間を入れて、4月に最終回を開く。

【岡山課長】 現在、その予定で調整しております。

【三村委員長】 4月の日程はまだ決まっていないんですね。

【岡山課長】 はい。これから調整をさせていただこうと思っています。

【三村委員長】 まだ3月は、こういう答申を出しますというフレームとか項目は出てきますけども、まだ文案とか何かいろいろ練らなきゃいけないことがありますから、

それは3月25日にご意見をいただいて、最終回を4月に開くと。それで大体大筋ご了承いただきましたら、あと、委員長、副委員長に仕上げを任せていただいて、連休明けか、いつになるか知りませんが、市長さんにこうやって答申を出すというような手はずにいたしたいと思うんですね。

それで、なかなかこれも短い期間でまとめても、すぐ来年度から動けるかといったら、そう簡単にはいかないかもしれません。この委員会としてはこういう方針で次のステップを進めるべきであるという方向性を出したいと思っていますので。

今までの成果とか何かも入れて、どういうことをやりたいかというので、事務局が答申案の目次みたいなものをつくっていますので、これをちょっと説明、ご議論を十分いただけてもこんなものですよという予告編みたいなものをちょっと見てから本日は終了したいと思いますので、よろしくお願いします。

**【岡山課長】** 資料はお手元に届いていますでしょうか。資料の詳細につきましては、事務局の西山課長補佐からご説明を致しますので、よろしくお願いします。

**【西山課長補佐】** すまいまちづくり課の西山でございます。

お手元の資料に沿いまして、ご説明をさせていただきます。

まず、1枚目の資料でございますけれども、三村委員長のご指示のもとで作成いたしました崇仁地区将来ビジョン報告書（案）の考え方の骨子につきまして、項目順に並べたものでございます。

その次の資料の、横長の資料でございますけれども、これをわかりやすくご説明するために、フロー図化したものでございまして、これをもとに報告書（案）の骨子の構成について、ご説明をしたいと思います。

まず、図の左上の欄の「はじめに」からでございますが、アの経過では、崇仁地区での改良事業の取組経過や、これまでの事業成果等につきまして触れておりまして、事業の長期化によりまちの活力が低下する中、次、右側の矢印に沿っていただきますが、京都市同和行政終結後の行政の在り方総点検委員会から2つの項目の提言を受けまして、この将来ビジョン検討委員会を設置し、その後、京都市からの4つの検討項目について、これを2つのグループに分けて検討を行うようになった、このような経過を示している部分でございます。

そして、もう一度初めの部分に戻っていただきますが、イの検討の視点では、

このビジョンの検討に当たっての大きな考え方として、これまでの地元と市の協働によるまちづくり計画等をベースに、これからの社会情勢や地域の歴史性、今日的強みを踏まえて検討していくといった内容で報告書（案）の考え方の方向性を示すこととしております。

次に、左欄に戻っていただきまして、「はじめに」の下のほうになりますが、崇仁地区の現状と課題についての部分です。

これは、第2回目の委員会でもご説明があったところですが、崇仁地区の特性や環境改善事業のこれまでの状況、都市計画法の規制がある中でまちづくりの課題等を示している部分でございます。

そして、その右側は、将来ビジョンが示す崇仁地区のまちづくりの欄でございまして、ここは、これらの課題について検討するに当たって総点検委員会からの提言及びビジョン検討委員会での検討を受けて考え方をまとめて示すところで、いわゆるこれが報告書の核となる部分かと思えます。ここでは、先ほど「はじめに」のこの検討の視点のところでも述べましたが、これまで地元まちづくり組織と京都市との協働により改良事業をベースにしたまちづくり協議が進められ、完成度の高い計画案がございまして、これを1stステージ、課題の欄のところにもう1つ箱枠で書いておりますけれども、これを1stステージとすれば、これを土台として踏襲しつつ2ndステージは、これからの社会情勢、崇仁界わいの歴史性、崇仁地区の今日的強みを押さえた中で「交流・賑わい、文化芸術創造のまち」というキーワードを引き出しまして、21世紀型のオープンなビジョンとしてまちの将来の方向性を示していこうという考え方でございます。

この方向性の具体化については、その下の欄に検討項目に沿って（4つございますけれども）、示していくという構成となっております。

そして、このビジョンを具体化させるに当たりましては、総点検委員会の提言にもありますとおり、住宅地区改良事業の早期完了を図ることが重要であり、そのための新たな手法の導入としまして、右側の欄になりますけれども、土地区画整理事業との合併施行という手法の導入、考え方を示しております、この結果、事業の完了により生じる新たな土地の利活用についてビジョンの方向性に沿って検討ができるという構成となっております。

こういう仕組みで考え方の構成を考えておりまして、最後でございますが、な

お書きのところに、事業用地の暫定利用の考え方についても示していこうというふうに考えております。

以上、簡単にご説明いたしましたけれども、報告書（案）の考え方の骨子の構成についてご説明いたしました。以上でございます。

**【三村委員長】** 本当に簡単で申しわけありませんけど、今までやってきたことはフォローしているわけですが、総点検委員会から出された課題についても答えていくということですが、あまりに複雑にしないように、わかりやすいような形でまとめなきゃいけないと思って、私も3月のある時期はちょっと時間を投入しなきゃいけないなと思っているところですが、市長さんにこうやって答申書を渡して、「はい、ご苦労さま」とかいうような話になるのか、例えば、マスコミとか何かにちゃんと記者会見したりしてブリーフィングしなきゃいけない場合もあるでしょうし、地元の委員の方々は、君たちは何をこの委員会へ行ってやってきたんだとか、答申の内容を説明してほしいとか、それを考えるワークショップを開きたいとか、そういうことも後々出てきますね。せっかく出した答申を皆さんに理解していただくためのフォローアップの仕方というのも考えておかないと、ぱっと出して、「はい、終わり」というわけにはいきませんので、これはちょっと行政も、地元の方も、どういうようにしてわかりやすい形で答申の内容をご理解いただけるか。また、それをきっかけにして新たな活動とか提案をいただけるかということも視野に入れて、次のステップへバトンタッチしなきゃいけないわけですね。終わりのようであって始まりのようでもあるような状況ですので、そこもちょっと事務局でもよく考えておいてほしいと。

**【桐澤住宅政策担当局長】** 先生が実に細やかなところまでおっしゃっていただきまして、実はあまり言うことがないなというぐらいに思っておりましたところですよ。

今、先生がおっしゃったように、このビジョンが単にここで議論されているというだけではなくて、地元の中に持ち帰って、地元のまちづくりにもなる。今日下京区長が来て、いろいろおっしゃっていただいておりますけれども、下京区の中の基本計画とも連携をしながら、広い、大きな計画の中でも生かされていく。そして、そうした結果が京都のまちづくりに資するものになっていくというのがもともとこのビジョンのところに戻ってくると、こういうふうになりまして、先生がおっしゃるように、まだ今細かく、どの時点で市長に答申をして、記者会見

などを持つかどうか、そこまではちょっと考えておりませんが、そうしたことが全体のビジョンとして出来上がってくる中ですから、3月、4月ぐらいのころにはもう少し明確にしていきたいなと思います。

先ほど、先生からおっしゃっていただいたようなことが、ほんとうに具体化するように、事務局として考えていきたいというふうに思っております。

【三村委員長】 私もいろいろ委員長をやってきました、答申とか報告を出したんだけど、それでご苦労さんとかいって棚の上に上がってほこりをかぶっているような報告書もかなり経験してきていますので、今回はそうであってはいかんと、こう思っているところでございます。

それじゃ、こういうことで、大体このフレームですけど、もうちょっと文章の肉づけをして、できるだけ簡明にしながら、委員の皆さん方のところへ個別のご意見を賜りに行きます。それで、事務局も非常に忙しいですけど、年度末、25日までに原案をつくって、ここで説明をして、最終的なまとめについての議論をやりたいと、こういう段取りですので、よろしくお願いします。

後半の1時間でそれをやると言っていましたけど、15分でおかげさまで理解していただきましたので、これで5分おくれで本会議は終了とさせていただきたいと思います。

事務局、よろしく。

【佐倉部長】 委員長、どうもありがとうございました。委員の皆様方におかれましては、本当にお忙しい中、活発なご意見をいただきまして、どうもありがとうございました。

今日の意見等をまとめさせていただきまして、またホームページのほうに今日の会議録も含めまして、委員長にご確認をいただいた上で公開させていただきたいと思っております。

先ほどの日程についてですが、委員長が申し上げましたように、3月25日の2時から（4時に変更）の予定を現在いたしておるところでございます。場所についてもこの場所ということで考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。詳細につきましては、追ってご連絡させていただきたいと思っております。

それと、報告書（案）についてでございますけれども、これもまた事務局でまとめさせていただきまして、個々にご意見をいただけるような形で25日までに

何らかの形で出せるようにやってまいりたいと思いますので、どうぞご協力のほどよろしくお願いいたしますと思います。

それでは、長時間にわたりご協力いただきまして、まことにありがとうございました。これで、本日の第5回京都市崇仁地区将来ビジョン検討委員会を終わらせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

—— 了 ——